

○藤田英介・福井清美・四蔵文夫<sup>1)</sup>  
 (鹿児島農総セ熊毛支場・鹿児島地域振興局<sup>1)</sup>)

【目的】

熊毛地域のサトウキビは、地域経済を支える重要な基幹作物であり、その品種構成は、90%以上を「NiF8」が占める。

しかし、近年株出し栽培の単収低下が現地で問題となっており、労働力不足や収穫作業との競合による株出し管理の遅れや不徹底が原因と考えられることから、今回、収穫時期別に株出し管理時期の検討を行い、株出し管理時期が株出し栽培の生育・収量に及ぼす影響を明らかにした。

【材料および方法】

本試験は、2004年から2006年まで3年間行い、春植え+株出しの体系で2回試験を行った。品種は、「NiF8」を用いた。施肥は、春植えのみ堆肥をアール当たり200kg、春植え、株出し共に成分量としてアール当たり窒素が1.50kg、リンが2.57kg、カリが1.38kgを施用した。処理は、3月に植えた春植えを12月から3月まで1か月おきに収穫し、株出し管理をそれぞれ収穫直後、1か月後、2か月後の3回を行い、株出し栽培における収量、品質、生育に関する調査を行った。

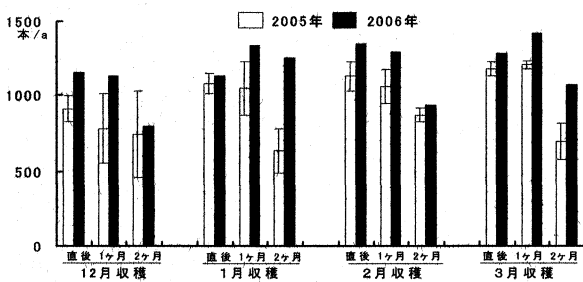
なお、本試験における株出し管理は、株揃え、根切り・排土、施肥、薬剤散布、マルチを行った。

【結果および考察】

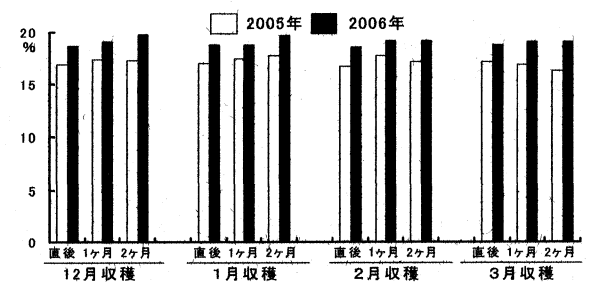
収量性については、12月収穫では、株出し管理時期における原料茎重に明確な差は生じなかったが、総じて1～3月収穫より原料茎重が低い傾向が見られた。1～3月収穫では、収穫直後から1か月以内に株出し管理を行うことにより、萌芽や初期生育が良好で原料茎数が安定して多く確保できたため、原料茎重は収穫直後管理と1か月後管理の間に明確な差は生じなかった。それに対して、収穫2か月後に株出し管理を行うと、収穫直後に株出し管理を行った場合と比較して萌芽数・初期生育が劣り、原料茎数が少なくなり、原料茎重が10～40%も減収する有意な差が認められた(第1図、第2図)。

品質面については、収穫直後と1か月後、2か月後の間にブリックスや蔗汁糖度などで差が無かったことから、株出し管理の時期の違いによる蔗汁品質には、明確な差がみられなかった(第3図、第4図)。

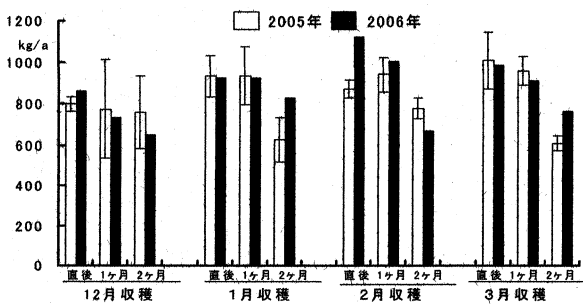
以上の事から、1～3月に収穫を行った後、1か月以内に株出し管理を行うことで、萌芽と初期生育が良好となり、原料茎数が確保され、株出し栽培の安定多収につながる事が明らかとなった。



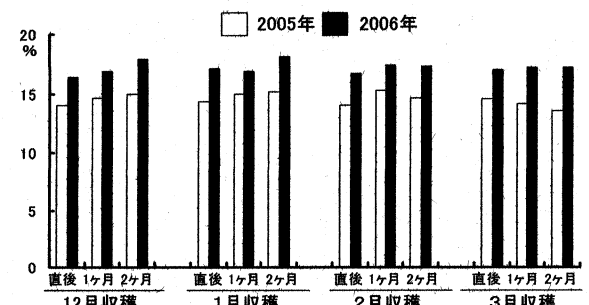
第1図 収穫時期、株出し管理時期別原料茎数



第3図 収穫時期、株出し管理時期別ブリックス



第2図 収穫時期、株出し管理時期別原料茎重



第4図 収穫時期、株出し管理時期別蔗汁糖度